

## アブラヤシ種子の成分について

東海技術センター ○中川玲子 梶女大生科 太田有美 並木和子

アブラヤシは、西アフリカ原産のヤシ科の植物で、果実から油を採るために熱帯地方で栽培されている。果肉（中果皮）から採れる油がパーム油、種子（胚乳）から採れる油がパーム核油（カーネル油）と呼ばれている。これらの油は、食用・工業用に広く使用されている。

西アフリカのチンパンジーは、このアブラヤシの果実を割り、中の胚乳を非常に好んで食べることが確認されているが、パーム油・パーム核油は、現地で精油されてから輸入されるため、胚乳自体の成分については知見が得られていない。そこで、胚乳の成分を調べ、日本でチンパンジーにえさとして与えているクルミやピーナッツなど種実類と比較を試みた。水分、蛋白質、脂質、炭水化物、灰分、エネルギー、ミネラル、脂肪酸、アミノ酸、糖質について成分分析を行った。

アブラヤシの胚乳は、エネルギーが種実類の中でも高い値を示したが、脂質は少なく、糖質が多い結果であった。また、脂肪酸組成では、他の種実がオレイン酸やリノール酸が多いのに対して、ラウリン酸が多いと言う結果が得られた。